

Title	日本田制史及び其の著者横山由清(一)
Sub Title	
Author	加藤, 繁(Kato, Shigeshi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.1 (1927. 3) ,p.68- 68
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270300-0068

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

日本田制史及び其の著者横山由清 (一)

加 藤 繁

日本田制史を語らうとすれば、先づその著者横山由清先生について一言しなければならぬ。先生は江戸の人、文政九年に生れた。母大村氏が勝れた歌よみであつたので、幼少の頃からその教を受け、長じて國學を修めて一家を成し、和學所の教授に任ぜられた。この間、兼れて漢學蘭學醫學をも修めた。王政維新の後大學中助授となり、大學が一時廢せられたとき、權少史にうつり、ついで元老院少書記官に任ぜられ、暫く野に下りやがて再び權少書記官に任ぜられ、明治十二年、五十四歳を以て歿した。元老院では、主として舊典類纂の編輯に従事し、かたはら上司の諮問に應じて制度典禮上の疑義を解決し、大久保利通、江藤新平の知遇をも獲たと傳へらる。

先生の一生は講學著述を以て終始した。従つて著書は頗る多い。なかんづく最も心血を注がれたのは舊典類纂であつたらしい。舊典類纂は、纂輯御系圖、皇位繼承篇、皇權篇、後宮篇、戶籍篇、田制篇、後見篇、婚姻篇、質物篇、商業篇、錢貨篇、租稅篇、貸借篇、住所篇、物價篇、兵制篇、徭役志略等から成立つた彪然たる一大書類である。この内纂輯御系圖、皇位繼承篇は先生在世中、元老院から出版せられ、爾餘の諸篇は出版されず、且おほむれ未完成であつたが、田制篇十卷だけは、先生歿後、元老院議官細川潤次郎氏等によつて校正せられ、明治十六年に上梓された。(九〇頁へ續く)